

小・中学校

平成 16 年 度

教育研究員研究報告書

へ き 地 教 育

東京都教職員研修センター

目 次

| | | |
|--|-------|----|
| 研究主題設定の理由 | ----- | 2 |
| 1 地域・学校の特性 | | |
| 2 児童・生徒の実態 | | |
| 3 へき地教育の課題 | | |
| 研究の内容と方法 | ----- | 2 |
| 1 研究仮説 | | |
| 2 育てたい力 | | |
| 3 指導の手だて | | |
| 4 検証事例の位置付け | | |
| 研究の構想図 | ----- | 5 |
| 調査研究 | ----- | 6 |
| 検証事例 1 | | |
| 「整数の新しい仲間分けを考えながら、自分や友だちの『よさ』に気付き、 伸ばそうとする指導」（小学校第 5 学年 算数） | ----- | 9 |
| 検証事例 2 | | |
| 「作品の鑑賞を通して、『よさ』に気付かせる課題学習」 （中学校第 3 学年 美術） | ----- | 14 |
| 検証事例 3 | | |
| 「コミュニケーションへの関心・意欲を高め『よさ』に気付かせる 課題学習」（中学校第 2 学年 英語） | ----- | 19 |
| 研究の成果と今後の課題 | ----- | 24 |
| 1 研究の成果 | | |
| 2 今後の課題 | | |

研究主題

自らのよさに気づき、伸ばす児童・生徒をはぐくむ課題学習の研究

研究主題設定の理由

平成 15 年 12 月に文部科学省から学習指導要領の一部改正が示された。その中で、小・中学校においては、個に応じた指導が一層充実されるよう、そのための指導方法等の例示が加えられた。

へき地にある学校においては、一人の教師が担当する児童・生徒数が少ないため、個に応じた指導が充実しているように思われている。しかし、その指導の手だてが、児童・生徒一人一人の確かな学力を育成し、生きる力をはぐくむという新学習指導要領のねらいの実現に結びついているかは、改めて考える必要がある。

本研究では、今回の改正に示された例示の中から、へき地の特性を生かし、児童・生徒の興味・関心等に応じた課題学習を工夫することにより、自らのよさに気づき、それを伸ばしていく児童・生徒をはぐくむことができると考え、本研究主題を設定した。

1 地域・学校の特性

豊かな自然に囲まれた西部山間及び島しょ地域であるが、一部には天災により離島を余儀なくされている地域もある。また学校規模も少人数とは限らず、複数学級も存在している。

2 児童・生徒の実態

小学校以前から同集団で暮らしているため、改めて個々のよさに気付く機会は少ない。また、学習活動を通じ個々のよさを伸ばそうという刺激も少ない。

3 へき地教育の課題

平成 15 年度教育研究員「へき地教育」部会では、「学び得たものを発信し、交流を図ることを通じ、児童・生徒が自分に誇りをもてるようにすること」が課題として残された。今年度、課題学習の研究を通して、児童・生徒が自らのよさに気づき、互いによさを認め合い、伸ばしていくことが、児童・生徒が自分に誇りをもつことにもつながることを確かめた。

研究の内容と方法

研究の方向を定めるために、まず先行研究の分析を行った。その結果、これまでのへき地教育の研究では、固定した人間関係により不足している社会性の育成や、自己表現力の育成など、へき地の子どもたちの課題に焦点をあて、その改善に向けた研究が多くされていた。本研究においては、個に応じた指導を行う上で、教師が子どもたち一人一人のよさをとらえ、それに気付かせ伸ばす指導が必要であると考え、研究を進めることとした。

1 研究仮説

研究を進めるにあたって次の研究仮説を立てて、研究を深めることとした。

児童・生徒の興味・関心等に応じた課題学習を工夫することによって、主体的に課題を解決し、自らのよさに気づき、伸ばす児童・生徒が育つであろう。

自らのよさは他と比較するものではなく、個々の変化において生まれるものとする。また、課題を個々の興味・関心等に応じたものに設定することで、児童・生徒の自ら学ぶ意欲を高め、さらに自ら課題を選択することで、児童・生徒の課題選択力を高めることができると考えた。そのように課題学習を工夫することが、児童・生徒の主体的に課題を解決する力を育成することにつながると仮定した。さらに、その取組の過程で、一人一人が自らの「よさ」に気づき、その「よさ」をより伸ばす力をはぐくむことにも発展するであろうと考え、仮説とした。

本研究を進める上で、部会の研究員がそれぞれ校種・指導教科が異なるため、研究主題における「よさ」について、以下の共通理解を図った。

それぞれの課題ごとに、はぐくむべき「よさ」を設定する。

課題学習を進める上での「よさ」を明確に示す。

「よさ」についての評価は、教師による評価、児童・生徒の自己評価、児童・生徒による相互評価、の3つの評価方法で行う。

本研究の検証事例における「よさ」の具体的内容については、後に述べることとする。

2 育てたい力

児童・生徒の実態を踏まえ、その興味・関心等に応じた課題学習を工夫することによって、育てたい力を以下のとおりとした。

興味・関心等に応じた課題を選択する力
課題を解決する力
個々のよさに気づく力
自己のよさを伸ばす力

3 指導の手だて

育てたい力を育成するための指導の手だてを以下のように設定した。

(1) 学習教材の工夫

学習指導要領に示された内容を踏まえ、学習を進める中で、地域や学校の実態、児童・生徒のよさなどを生かすことのできる教材を工夫した。それにより、今まで気付かなかったよさに気づき、大事にして伸ばしていく気持ちが育ち、育てたい力を伸ばすことにつながるととらえた。

(2) 課題提示の工夫

課題を設定する以前に、アンケートやふり返しシート等で、児童・生徒の興味・関心等を把握した。一人一人が自己のよさに気づき伸ばすことのできるような課題を設定し、学習を進める中で、課題解決力がはぐくまれていくものと考えた。自ら課題を設定することができない児童・生徒に対しては、興味・関心等に応じたいくつかの課題を示すなど提示方法を工夫し、児童・生徒が主体的に課題を選択できるよう配慮した。

(3) 学習方法の工夫

児童・生徒の興味・関心等を引き出すため、学習の進め方や形態を工夫した。学習の中で、自らのよさに気づき伸ばしていくために、自己の振り返りや他者とのかかわりをもつ機会も積極的に取り入れた。学校や児童・生徒の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、教師の協力的な指導などの指導方法を工夫したり、プリントやワークシート等を活用した学習方法の工夫を図るなど、学習内容の確実な定着と自らのよさに気づき伸ばす学習を展開した。

(4) 評価方法の工夫

興味・関心等に応じた課題学習を進める上で、児童・生徒の学習状況を適切に評価することにより、学習集団のよさや、自己や互いのよさにも気づき、さらにそれを伸ばすことにつながると考えた。この評価とは、教師による評価、児童・生徒の自己評価、児童・生徒による相互評価の3種類である。それぞれの評価方法を工夫し指導に生かすことが必要であるととらえた。

4 検証事例の位置付け

(1) 検証事例 1

ア 指導内容 小学校5年 算数

自分の考えで整数を仲間分けする活動を設定した。偶数・奇数を扱う単元で、偶数・奇数について十分な習熟をしたのち、取り組ませた。

イ 指導の手だて

「サイコロゲーム」「に入る整数は?」「100歩目はどっち?」などのゲームやクイズを行った。意見交換の場も「封筒交換ゲーム」などの学習方法を設定した。児童に自己評価をさせるため、学習の観点を明確に示し、自分で学習をふり返る活動をした。

ウ よさの位置付け

整数を様々な視点で見ていく工夫や、活動の中での児童の様々な工夫や努力を、「よさ」とした。

(2) 検証事例 2

ア 指導内容 中学校3年 美術

3年間で制作した鉛筆デッサンを鑑賞し、自分や他の生徒の成長に気付かせる課題を設定した。自分や他の生徒の作品を鑑賞し、ものの見方や感じ方を深めさせた。

イ 指導の手だて

「鑑賞プリント」や「メッセージプリント」によって、自分や他の生徒の成長した部分に気付かせた。また、発表によって、自己の変容やお互いの成長を認め合わせた。

ウ よさの位置付け

3年間の作品の構想・表現や基礎的スキルについての成長を「よさ」ととらえた。互いの作品の鑑賞を通して、自分の成長に気づき、よさを認め尊重し合うことにより、自己のよさを更に伸ばそうとする生徒が育つことを期待した。

(3) 検証事例 3

ア 指導内容 中学校2年 英語

不定詞を使い、自分の夢や希望についてスピーチをする課題を設定した。スピーチの基本を理解させ、友達と練習をさせることで、よいスピーチを作ることに取り組ませた。

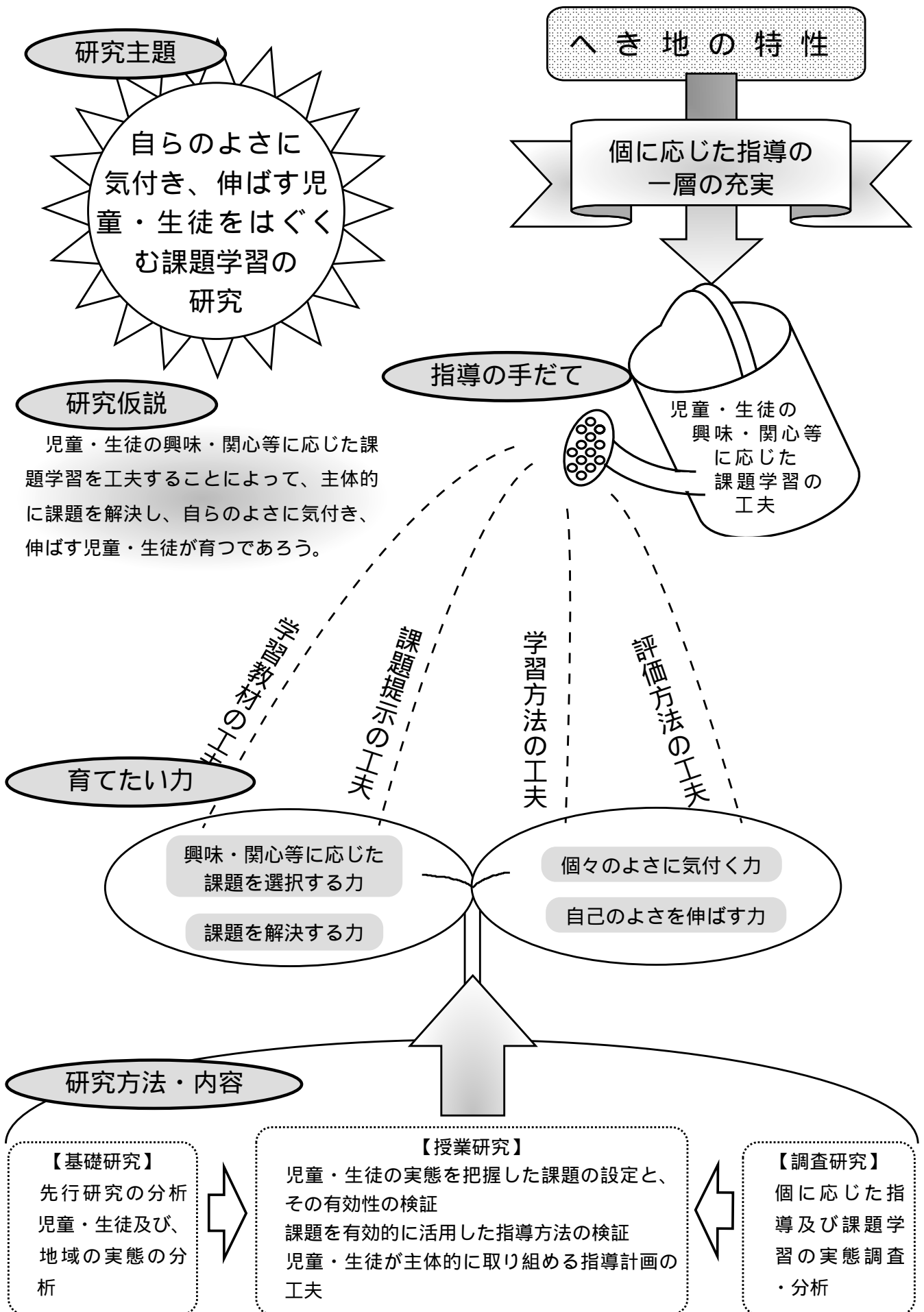
イ 指導の手だて

AETとのチームティーチングで個々の違いに応じた指導を行った。また、スピーチへの興味・関心を高めるために、モデルスピーチをし、意欲を高めさせた。

ウ よさの位置付け

よいスピーチをするために工夫した点を「よさ」とし、友達と練習しながら、友達のよさに気づき、それを自分に活かしたことを「よさを伸ばす」とした。

研究の構想図



調査研究

1 調査目的

西部山間及び島しょ地域の教師及び児童・生徒が「個に応じた指導」及び「課題学習」をどのようにとらえて、どのように実践しているのかを調査し、研究の方向性を明確にし、授業研究での指導に生かす。

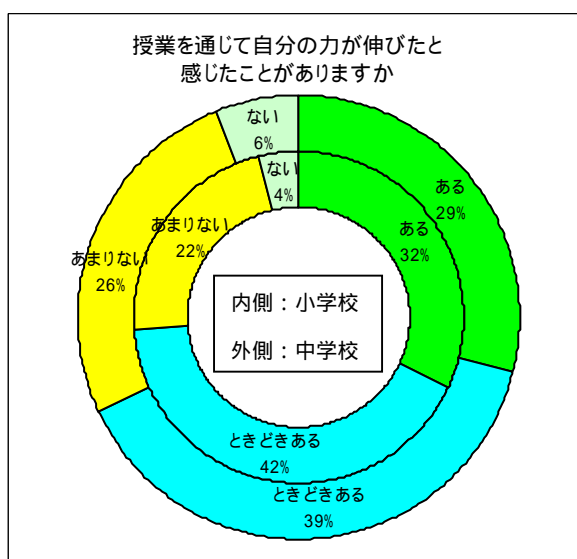
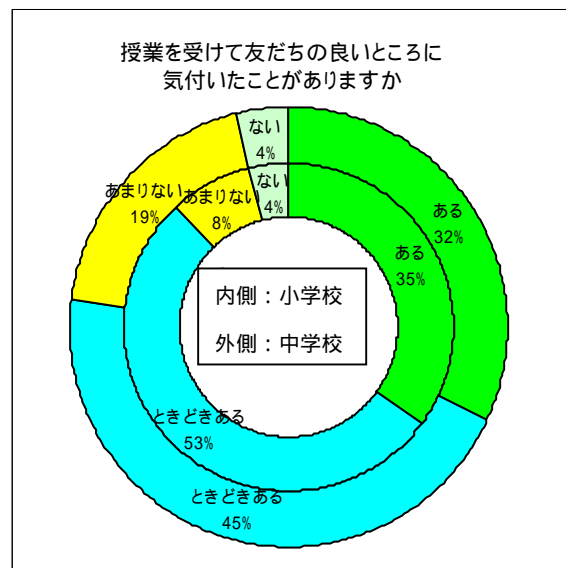
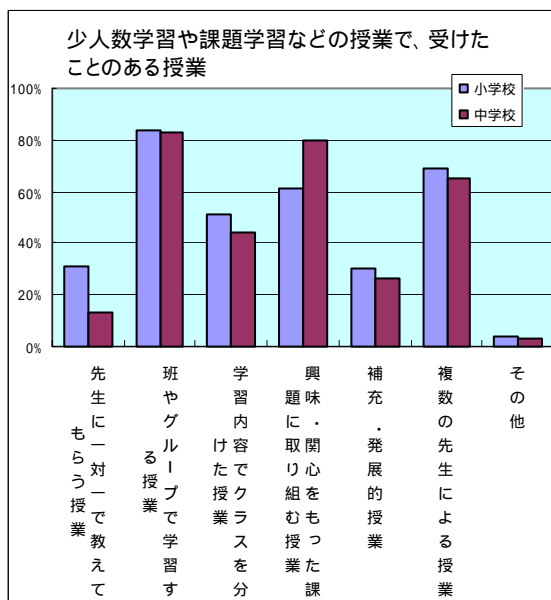
2 調査対象

| | | |
|----------------|-------------------|--------|
| 【小学校】児童（5・6年生） | 西部山間地域 2校、島しょ 8校、 | 計 276名 |
| 教師 | 西部山間地域 2校、島しょ 8校、 | 計 66名 |
| 【中学校】生徒（1～3年生） | 西部山間地域 2校、島しょ 2校、 | 計 348名 |
| 教師 | 西部山間地域 2校、島しょ 2校、 | 計 73名 |

3 実施時期 平成 16 年 10 月

4 調査結果と考察

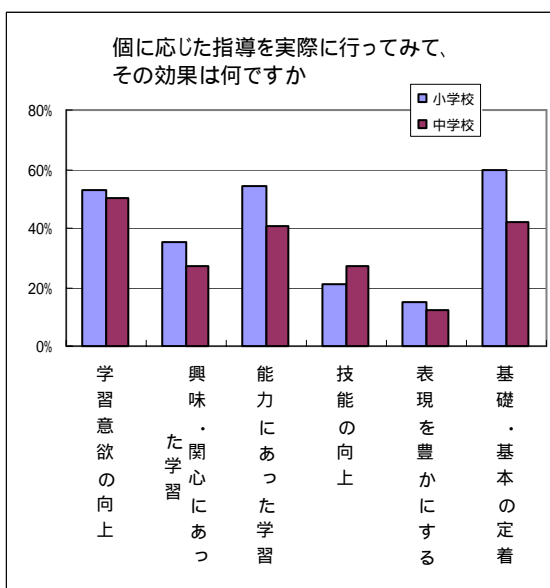
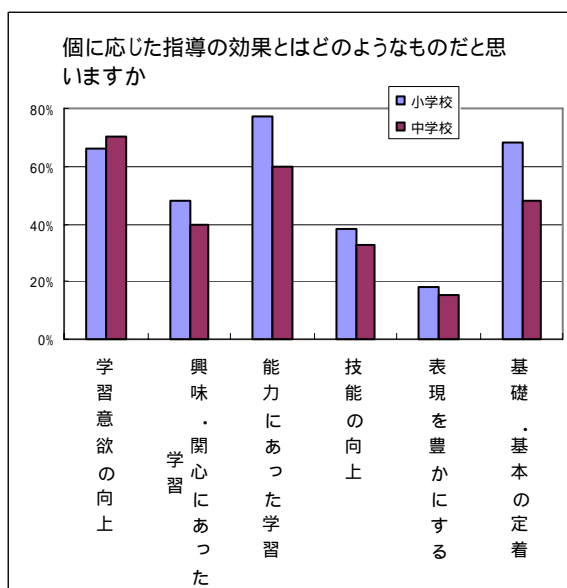
(1) 個に応じた指導の効果（児童・生徒対象）



【結果】 実際に児童・生徒は左上グラフに示した個に応じた指導を受けている。個に応じた指導により、小学生の 88%・中学生の 77%が友だちのよいところに気付き、小学生の 74%・中学生の 68%が自分の力を伸ばすことができていると実感している。

【考察】 多くの児童・生徒が個に応じた指導の効果を感じ取っている。すべての児童・生徒が効果を認識し、主体的に取り組めるよう、教師の適切な指導や支援が必要である。

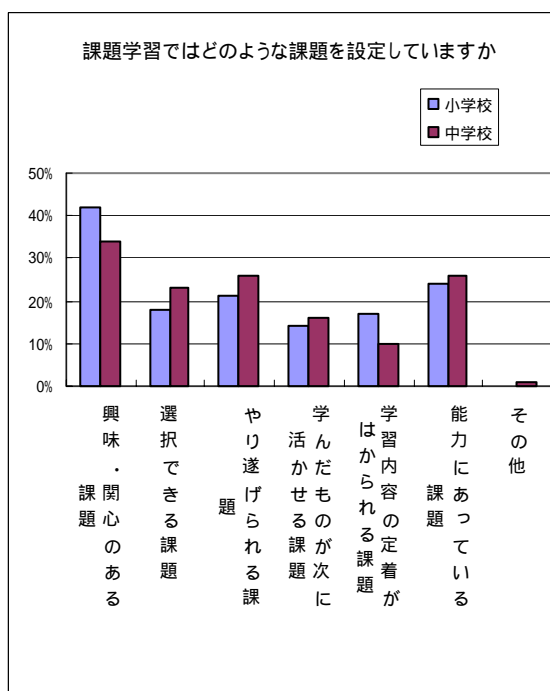
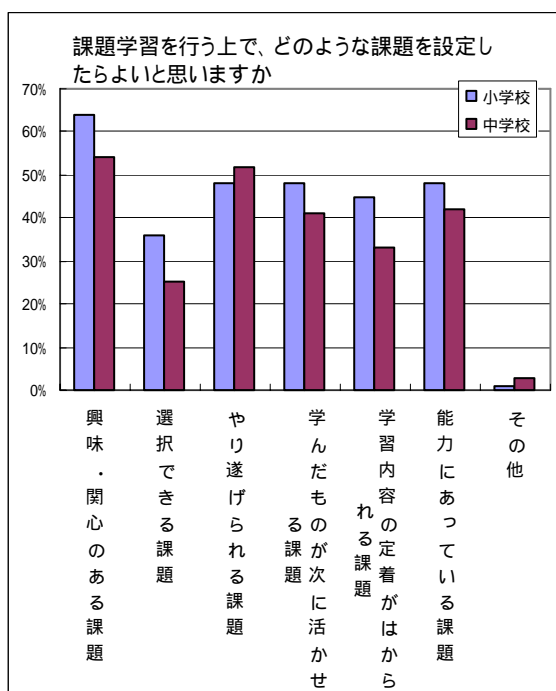
(2) 個に応じた指導の効果（教師対象）



【結果】 個に応じた指導を行うことによる期待する効果と、実際に行ってみての効果を比較すると、各項目では期待した効果を上げていることがわかる。しかし、全体を平均すると、期待する効果の76%にとどまっている。

【考察】 自ら学ぶ意欲や思考力、表現力などを育成し、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を活かす教育を進めるためには、個に応じた指導は必要不可欠であり、多くの効果が期待されている。期待する効果を確実に上げるためには、どのような指導の工夫をすればよいのかを検討していく必要がある。

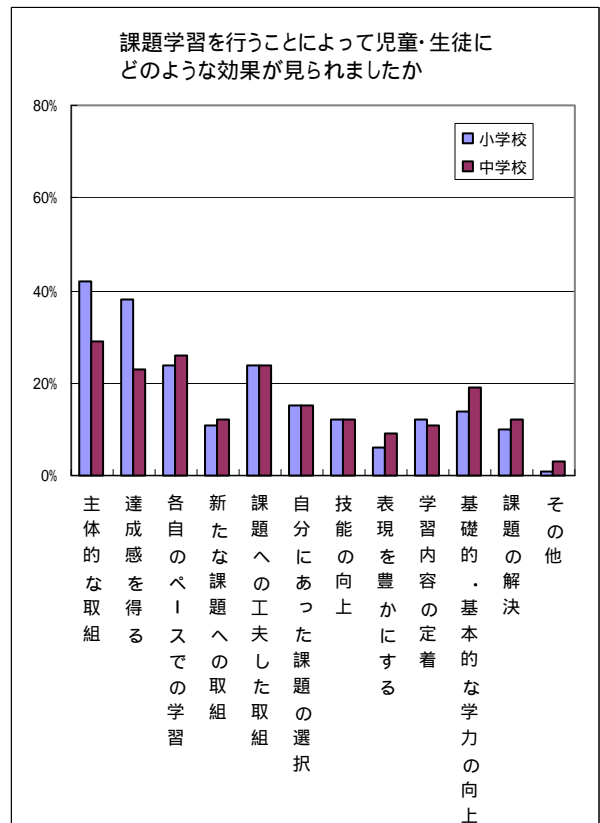
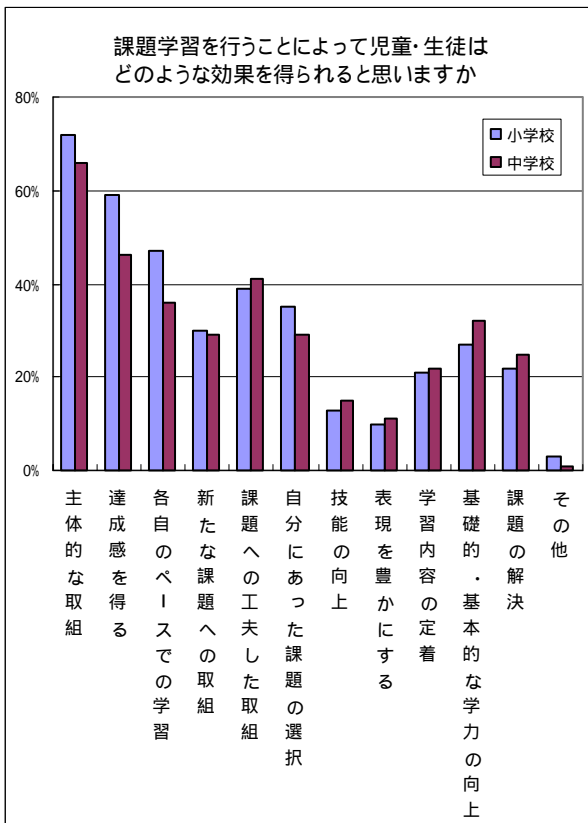
(3) 課題学習の現状（教師対象）



【結果】 児童・生徒の興味・関心のある課題の設定が多く行われている。学習内容の定着を図る課題を設定している割合は、小学校 17%・中学校 10%、次の学習に活かせる課題は小学校 14%・中学校 16%であり、学習の広がりをもたせるために課題学習を実施している割合は低くなっている。

【考察】 課題学習を実施する上で、何を課題として学習内容を組み立て進めていくのが、明確になっていないところがある。どのような課題を設定すれば、児童・生徒が意欲をもって主体的に活動できるようになるのかを検討していく必要がある。

(4) 課題学習の効果（教師対象）



【結果】 課題学習を行うことによって、多くの効果が得られると期待はしているものの、実際に行ってみて得られた効果はどれも 50%を下回る結果となっている。

【考察】 教師は課題学習での成果は低いと感じている現状が明らかになった。しかし、前述のように児童・生徒は課題学習を行うことで、自分や友だちのよいところに気付いたり、自分が伸びたと感じている。ここに、教師と児童・生徒との間に意識のずれが生じている。このずれは、教師が思っている「よさ」と児童・生徒が思っている「よさ」とのずれである。課題学習を行う上で、そのずれを修正するためにも、育てたい「よさ」とは何かを考え、児童・生徒に明確に「よさ」の観点を伝えていく必要がある。

検証事例 1

| | | |
|-----------|--|--------------------|
| 検証事例 1 | 整数の新しい仲間分けを考えながら、自分や友だちの「よさ」に気付き、伸ばそうとする指導 | 9月実施 小学校第5学年 算数 |
|-----------|--|--------------------|

1 単元名 「整数を2つのなかまに分けよう」

2 単元の目標と評価規準

偶数、奇数について知り、整数の性質についての理解を深める。

| 関 算数への関心・意欲・態度 | 考 数学的な考え方 | 表 数量や図形についての表現・処理 | 知 数量や図形についての知識・理解 |
|----------------------|-----------------------------------|-----------------------|-------------------------|
| 整数を偶数、奇数の観点から見ようとする。 | 整数を偶数、奇数の集合体としてとらえ、それらの性質について考える。 | 整数を偶数、奇数に類別することができきる。 | 整数を偶数、奇数に類別することを理解している。 |

3 研究主題と本単元との関連

本単元はある規則によって整数を類別していく課題である。教科書ではそれが児童にとって身近な偶数と奇数に限られている。しかし、新しい規則を考えることで別の類別も生まれてくる。そして、児童の整数の見方を広げることができる。

この広がりをもった課題の設定が、児童の興味・関心等に応じた課題学習につながると考え、単元の最後に、整数の新しい類別を生み出すという課題を提示する。

新しい類別を考えていく時、児童は工夫し、様々な視点で整数を見ようと努力する。その工夫や努力に児童のよさがある。本単元では、これをよさとして設定し、そのよさにお互いが気付き合える場を設定する。活動を通して、自分では思いつかなかった考えに気付く児童や、更なる新しい考えを発見する児童があると考え。これはよさを伸ばすことである。よさに気付き伸ばすという観点をこのように設定し、児童の取組に反映させたい。

4 児童の実態

三宅島から避難してきた児童が登校している学校での授業である。避難児童は全7名。その中の1名が在籍している5年生が対象である。児童が転入して4年の月日がたっている。教師や友達との関係もよく、学校生活は順調である。

5年生は3年生の時から少人数指導での算数学習を進めている。基礎学力のボトムアップを図る目的から、単元のほとんどを習熟度別コース学習で行っている。単元の内容によっては、児童の興味・関心等による課題別グループでの学習も経験している。

課題学習においては、身近な生活に結びつくイメージしやすい課題に対しては理解が早い。しかし、新たに規則を見つけ出したり作っていくなど、体験がなく、イメージもしにくい事柄を深めていくことに関しては、理解に時間がかかるように思われる。

5 指導の手だて

(1) 学習教材の工夫 ... 「整数遊び」「整数クイズ」

児童が整数に対し様々な見方ができるように下のような遊びやクイズを入れる。

「サイコロゲーム」

2つのサイコロの目の和が偶数になるか奇数になるかを予想し遊ぶ。途中で条件をサイコロの目の積にしたり、サイコロを3つにしたりする。2時間目に行く。

「 に入る整数は？」

ある規則に従って変化する数列の 部分に入る数を考える。3時間目に行く。

「3、6、9、 、15、...」

「1、2、4、 、11、...」

「1、4、9、 、25、...」など

「100歩目はどっち足？」

下のような条件のもと、100歩目が右足か左足かを考える。3時間目に行く。

「普通に、右、左、右、左、...と歩いたときの100歩目はどっちの足でしょう？」

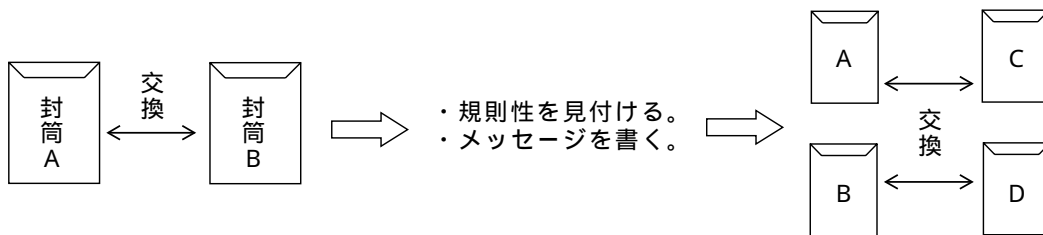
「ケンケンで、右、右、左、左、...と歩いたときの100歩目はどっちの足でしょう？」など

「新しい仲間分けを考えよう」

偶数・奇数以外に、自分たちで考えた整数の分け方を考える。

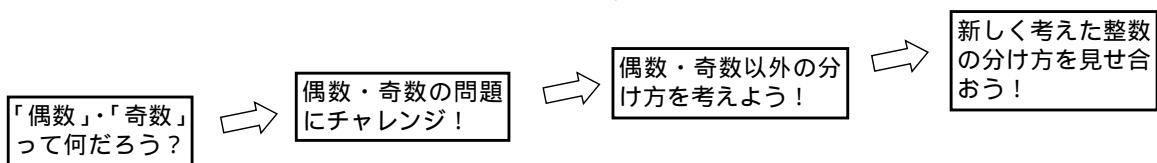
(2) 学習方法の工夫 ... 「封筒交換ゲーム」

考えた仲間分けを問題にし、封筒に入れ友達と交換して問題を解き合う。友達がどのような規則で整数を仲間分けしたのかが分かったら、問題についてのメッセージを書き同封する。そして、友達の封筒を他の友達の封筒と交換し、同様に繰り返す。できれば友達全員の問題にふれられるようにする。4時間目に行く。



(3) 課題提示の工夫 ... 「単元道しるべ」

単元全体の内容を1時間目の最初に示し、児童に学習の見通しをもたせる。見通しをもたせることで、学習に対する意欲・関心を高めたい。



(1時間目の最初、上のように黒板に示す。)

(4) 評価の工夫 … 「ふり返り」

始業時に学習の目的となる明確な観点を示し、それについて学習の最後に児童が自己評価を行う。本単元の1～3時間目は学習の実現状況を評価し、4時間目はそれに加え、よさについての観点を設定し、ワークシートに記録する。

| |
|---|
| <p>㊦ 今日の学習で、以下のことができましたか？</p> <p>友だちの考えた整数の分け方の規則を発見することができましたか？ できた だいたいできた あまりできなかった できなかった</p> <p>友だちが整数を分けるときに、どのような工夫（よさ）があったかを考えることができましたか？ できた だいたいできた あまりできなかった できなかった</p> <p>友だちが工夫した整数の分け方から、新たに別の分け方を工夫することができましたか？。 できた だいたいできた あまりできなかった できなかった</p> <p>これからの学習で、友だちの工夫（よさ）を活かすことができますか？ できる だいたいできる あまりできない できない</p> |
|---|

4時間目に使用するワークシート。㊦は、ふり返りのマーク。

6 指導の実際

(1) 指導・評価計画（総時数4時間）

| 時 | 学習活動 | 評価 | 指導体制 |
|-----------|--|---|--------------------------------------|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・「偶数」「奇数」の意味を知り、偶数、奇数はどのように並んでいるか調べる。 ・偶数と奇数を、それぞれ2で割ったときのあまりについて調べる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数直線から偶数と奇数の並び方を考えている。 ・整数を偶数と奇数に分けることができる。 ・偶数、奇数の意味を理解している。 | コー ス 学 習 熟 度 別 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・1638476は偶数か奇数が調べる。 ・偶数+奇数はどうなるか調べる。 ・偶数×奇数はどうなるか調べる。 ・サイコロゲームを楽しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・整数を偶数、奇数の観点から見ようとしている。 ・偶数、奇数の性質を利用して、整数を正しく類別することができる。 | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・整数をいろいろな仲間に分ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・整数を自分の考えた規則で仲間分けすることができる。 | 一 斉 指 導 |
| 4 (本時) | <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで考えた整数の仲間分けを出し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・友達が考えた整数の仲間分けについて、規則性を見付けることができる。 ・友達の整数を仲間分けする工夫を見付けようとし、それを活かそうとする。 | |

(2) 本時の目標

友達が考えた整数の仲間分けについて、規則性を見付けることができる。

仲間分けの規則性を理解し、相手に伝えることができる。

友達が工夫した整数の仲間分けのよさに気づき、活かそうとする。

(3) 本時の展開

| 主な学習活動 | 指導の手だて | 評価 |
|--|--|--|
| <p>本時の活動を確認する。</p> | <p>授業の流れを示し、見通しをもたせる。</p> <p>自己評価の観点を示し、学習に対するめあてをもたせる。</p> | |
| <p>前時に作成した整数の仲間分けを封筒に入れ、交換し、規則性を探し合う。</p>  | <p>ゲーム感覚で楽しく意見交換できるようにする。</p> <p>多くの友達と交換し、たくさんの考えに触れられるようにする。</p>  | <p>仲間分けされた整数をある規則の集合体として考える。</p> <p>仲間分けされた整数の規則性を見付けることができる。</p> |
| <p>見付けた規則性をカードに記す。</p> <p>整数の仲間分けについて友達が工夫した点などをメッセージにし、同封する。</p> | <p>規則性を文章で作成者に伝えられるようにする。</p> <p>よさの観点を黒板に掲示しておく、確認しながら活動できるようにする。</p> | <p>仲間分けされた整数の規則性を理解している。</p> <p>友達が工夫した整数の仲間分けのよさに気づき、活かそうとしている。</p> |
| <p>ふり返しシートを記入し、学習のふり返しをする。</p> | <p>本時の学習の実現状況と、よさに気づき伸ばすことができたかを意識させる。</p> | |

評価の観点の丸数字は、算数への関心・意欲・態度、数学的な考え方、数量や図形についての表現・処理、数量や図形についての知識・理解、を表す。

(4) 評価

友達が考えた整数の仲間分けについて、規則性を見付けることができた。

仲間分けの規則性を理解し、相手に伝えることができた。

友達が工夫した整数の仲間分けのよさに気づき、活かそうとしていた。

7 成果と課題

(1) 児童の興味・関心等に応じた課題学習

児童は自分たちなりに工夫して整数の仲間分けを行うことができた。2人のペアをつくり、協力して課題に取り組む児童もおり、相談しながらも楽しく課題に取り組むことができた。学習に広がりをもたせ、新たな課題を設定したことが効果的であったと考える。

しかし、十分に意欲を高めることができず、作業がはかどらない児童もいた。いろいろな問題やゲームにチャレンジした3時間目の方がむしろ学習意欲が高かった。児童にとっては、イメージをもとにした課題に取り組むよりも、いくつかの課題から自分の取り組みたい課題を選択することの方が、取り組みやすかったのではないかと推測する。

今後、児童の興味・関心等に応じた課題とは何なのかを十分突き詰め、児童の実態にあった課題やその提示方法を工夫する必要があると考える。

(2) 自らのよさに気付き、伸ばす

学習の始めに、本時の学習でのよさの観点を明確に児童に提示したことや、学習をふり返る自己評価などによって、児童は自らのよさに気付くことができたと思われる。よさを伸ばすことについても、具体的に観点を示すことにより、自分自身の評価をすることができた。

よさの観点を明確に示すことは、教師の価値観を教え込むようで不安な面もあった。しかし、教師の側から明確な価値観を伝えることは、児童にとっても「何を目的とした活動なのか」「何がよくて何が悪いのか」が明確になり、それについての判断が自らでき、よさに気付き、伸ばすことへの成果があったと考える。

今後、実際に伸びたことや程度を、具体的に児童自身が把握できるようにしたり、伸びを実感できる活動を設定する必要があると考える。

(3) へき地の特性との関連

へき地においては、児童数の少ない地域や人間関係の変化が少ない地域が多い。少ない人数であると、一人一人の児童の興味・関心について細かく見ることができ、課題の設定においても、個に応じた指導が可能になる。また、教師が個別指導を行う時間も多くとれるため、取組がうまくいっていない児童への丁寧な対応も可能である。

児童のよさは多様である。本検証授業は、三宅島から避難した児童が在籍している都区内の学校にて実施したが、多くの児童に対する授業においても、教師側の指導の手だてを工夫したことによって、児童のよさを引き出すことができた。

へき地においては、少人数であることを利点として、人間関係のつながりの強さを生かした学習を進めることができると思われる。そのためには、学習の中で求めるよさを明確にして、自分自身や児童相互がそのよさに気付き伸ばすことのできるような指導の工夫が求められるものと考えられる。

検証事例 2

| | | |
|-----------|------------------------------|---------------------|
| 検証事例 2 | 作品の鑑賞を通して、 「よさ」に気付かせる課題学習 | 10月実施 中学校第3学年 美術 |
|-----------|------------------------------|---------------------|

1 単元名 鑑賞「3枚のデッサン」～作品を通して自分を振り返ろう～

2 単元の目標

(1) 自分の成長（よさ）に気付く

毎年制作している同じ題材での作品を鑑賞することによって、成長した自分に気付く。

(2) 互いのよさを認め尊重しあう

お互いの作品を鑑賞し、構想・表現や基礎的技能についての変容などのメッセージを送ることによって、他の生徒の成長した部分に気付かせ尊重する心を育てる。

(3) 自己のよさをまとめた作品を制作する

3枚のデッサンと自己感想文、他の生徒からのメッセージをまとめて平面作品を制作し、更に自己の成長を意識させる。

3 研究主題と本単元との関連

研究主題にある「自らのよさ」について、美術という教科での「よさ」を考えてみた。表現活動の基礎として行っている鉛筆デッサンは、定期的に行っている課題である。1学年では、表現方法にあまり工夫が見られなかったが、2年生、3年生になるにつれて、技術面やものの見方、表現方法などの指導を行うことにより、かなりの成長が見られる。この成長は、生徒自身が作品を制作しているときには感じることはできないものである。

本単元では、3つの作品の構想・表現や基礎的技能についての変容を、研究主題における「よさ」ととらえた。それらの作品を鑑賞することによって、自らがその「よさ」に付き、ほかの生徒から「よさ」を認められることにより、更に美術の作品制作に積極的に参加し、伸ばそうとする生徒が育つのではないかと思い、この課題を設定した。

4 生徒の実態

人口2,000人、東京都の島の中では比較的人口の多い島である。学校は小学校・中学校・高等学校とあり、全学年とも1クラス20名前後で落ち着いている。学校生活においては、固定した人間関係の中で、ある程度、人間関係やその生徒同士での評価ができあがっている。美術での表現活動においては、比較的抵抗が少なく取り組むことのできる生徒が多く、デッサンや工芸など様々な分野での表現活動に積極的に取り組んでいる。

今回の単元では、「手のデッサン」を題材に使用している。この「手のデッサン」は毎年年度当初に必ず行う課題である。現3年生は過去に3枚、自分の手を見て40分間デッサンを行っており、3年間の変容を見るという目的で、それらの作品を今回の鑑賞授業で使用した。

5 指導の手だて

(1) 学習教材の工夫

自分が各学年で制作した3枚のデッサンを鑑賞の教材とし、技術的な成長を自分で再確認し、お互いの成長を認めあう。

(2) 学習方法の工夫

3枚のデッサンを鑑賞し、自分の作品に対する感想や、他の生徒へのメッセージプリントを使って、自分だけでなく他の生徒からも自分の成長を認めてもらい、自分の変容が確認できるように授業を進めていく。

(3) 課題提示の工夫

美術という教科としての「よさ」をとらえるために、「形の大きさ」「形のとらえ方」「陰影の描き方」等の技術的な観点を提示する。

(4) 評価の工夫

鑑賞プリントでの自己評価と、メッセージプリントでの相互評価を活用し、よさを感じ取ったり批評し合ったりする。3年間の生徒の表現力や技能について向上した部分に気付くことのできるように、観点を示し助言を行う。

6 指導の実際

(1) 指導計画（総時数3時間）

| 時間 | 主な学習内容と活動 | 留意事項 |
|-----------|---|---|
| 1 (本時) | 過去の3年間の作品を基にして、鑑賞の授業を行う。 ・自分の変容や他の生徒の変容に気付き、鑑賞プリントに記入する。 ・気付いた変容について発表する。 | ・作品自体の完成度を問うのではなく、作品の変容を見つめるよう指導する。 ・鑑賞を通し、他の生徒のよいところに気付かせる。 |
| 2 | 3年間の作品と、鑑賞・メッセージプリントを使用して、自分の学習の経過を確認できる1つの作品を、板段ボールに構成し仕上げる。 | ・新たな作品を作ることによって、自他の成長に気付き、これからの学習に活かせるようにする。 |

(2) 本時の目標

ア 3年間の作品を鑑賞することにより、自分や他の生徒の成長に気付く。

イ 3つの作品のよさを感じ取り、意欲的に鑑賞する。

ウ 他の生徒の作品を鑑賞し、その生徒にメッセージを残すことによって、ものの見方や感じ方を深める。




(3) 本時の展開

| 学 習 活 動 | | 指導の手だて()と評価() |
|-------------|---|--|
| 導 入 | <p>1年次入学式のクラス写真を見る。</p> <p>他クラスの生徒作品を掲示し、感想を言い合う。(4～5作品)</p> <p>3年間でどれくらい変わったか、意見を出し合う。</p> | <p>3年間で1度しかできない授業であることを意識させる。</p> <p>できるだけ自由に意見が出るようにする。</p> <p>伸びた部分やよい部分を意識して発言させる。</p> <p>たくさんの作品を見て、自分なりの価値意識をもって意見を出そうとしている。</p> <p>(美術への関心・意欲・態度)</p> |
| 展 開 | <p>【1】3作品を配布し、自分の作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞プリントに、自分の変容や感想を記入する。 ・記入し終わったら、お互いの作品を鑑賞し合うことのできるスペースを作る。 <p>【2】お互いの作品を鑑賞し合い、メッセージプリントに変容や感想を記入し相手に渡す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3作品を自分の感想プリントとともに机の上に提示する。 ・できるだけ全員の作品を鑑賞し、メッセージを渡す。 | <p>1～3年生での、構想、表現や基礎的スキルについての変容をとらえさせる。</p> <p>自分の作品の変容を感じ取り見方を深めることができる。</p> <p>(鑑賞の能力)</p> <p>自己の作品と同様に、3年間の構想・表現や基礎的スキルについての変容をとらえさせる。</p> <p>友達からもらったメッセージを見て、自己のよさに気付かせる。</p> <p>作品のよさを感じ取り味わい、意欲的に鑑賞しようとしている。</p> <p>(美術への関心・意欲・態度)</p> |
| ま と め | <p>発表とまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を提示しながら、自己がとらえた変容と友達からもらったメッセージの内容を発表する。 ・発表に対する感想を述べる。 <p>次時の予告</p> | <p>自分や友達のメッセージからとらえた、変容やよさを確認させる。</p> <p>具体的に作品を掲示し、次時への展望をもたせる。</p> |

(4) 評価

- ア 3年間の作品を鑑賞することにより、自分や他の生徒の成長に気付くことができた。
- イ 3つの作品のよさを感じ取り、意欲的に鑑賞しようとしている。
- ウ 他の生徒の作品を鑑賞し、その生徒にメッセージを残すことによって、ものの見方や感じ方を深める。

(5) 鑑賞シート (Aさんの作品)

| 1年生 | 2年生 | 3年生 |
|--|--|--|
|  |  |  |
| ~感想~ ・形が堅くて不自然、線も何回も描いて太くて、不思議な形になっている。 | ~感想~ ・よけいな線がなくなってすっきりしている。陰影の描き方が適当。 | ~感想~ ・昨年度までの作品とは比べものにならない。陰影にも強弱がついている。手の丸みが表現できている。 |
| ~ 3年間を通しての感想 ~ 初めてこれまでの作品を見比べたけど自分の成長ぶりにびっくりした。1年生の時の作品はあまり覚えていないけど、他の作品に比べてとても雑に感じる。指の関節とかもしっかりと描けていないので、まるでゴム手袋をしているみたい。 今まで制作した作品を見比べてみると、やっぱり段々と手らしくなっている。3年生の時の作品が自分では一番気に入っている。来年はもっとうまくなっているとイイな。 ~他の生徒からのメッセージ~ ・陰影の描き方が1年の時と3年の時と全然違う。 ・手の形が段々と丸みを帯びてきている。 ・手の描き方が優しくなっている。 ・1年生や2年生の時の作品は、手首が少し細くて頼りなく感じるけど、3年生の時の作品は、手首もしっかりと描けていて、がっしりとした感じに描けている。 ・段々と上達しているけれど、やっぱり3年生の時の作品がイイ。形や、陰影の描き方もしっかりしていて、さすが3年生！っていう作品。 | | |

7 成果と課題

この課題学習を実施し、今回の研究主題である「自らのよさに気付き、伸ばす児童・生徒をはぐくむ課題学習の研究」に照らし合わせて考えたところ、以下のような成果があり、更に次のステップへ進むための課題を見付けることができた。

(1) 成果

今までは制作した平面作品は保管し、卒業時に返却するだけにとどまっていたが、今回、それらの作品を見直し、鑑賞することによって、次のような成果が見られた。

ア 毎年、同じモチーフを使い制作した。それらの作品を鑑賞し、実際自分の技術がどの程度伸びたかを確認することは、今まで「自分の成長」を感覚でしか認識することができなかった生徒にとって、「自分の成長（よさ）」を具体的に再確認できる場面になった。

イ 今まで、授業中に制作した鉛筆デッサンを、鑑賞する機会はあまりなかった。今回、お互いの作品を鑑賞することにより、自分や他の生徒の技術や表現力が、学年が進むにつれて向上（変容）することに気付かせることができた。

ウ 作品についてのメッセージを書き、それを渡すことで、自分が気付かなかった部分を他の生徒に評価された。このことは、今まで自分のよさに気付くことのできなかった生徒にとって、新しい自分の発見につながった。

(2) 課題

ア 「うまくなった」というような抽象的なとらえ方をしないように、鑑賞の観点を明確に生徒に示し、美術という教科における「よさ」を生徒に認識させる必要があった。

イ 鉛筆デッサンの作品を制作することに関しては、どの生徒も一生懸命に取り組んでいた。しかし、その作品を鑑賞することになると、絵画に苦手意識をもっている生徒にとっては他の生徒に見られることの恥ずかしさが先に立ってしまい、難しい授業となった。苦手意識を抱く生徒への対応を考えておくことが必要だと感じた。

ウ へき地の特性として、小学校から人間関係があまり変わらないということがある。しかし、その特性を長所ととらえ、小学校からの平面作品を保管しておき、中学校3年間だけでなく、小学校からの9年間の自分の成長を確認することも可能である。全作品の保管は難しいかもしれないが、小学校と連携して作品をまとめておき、それらを鑑賞する授業を行うことによって、さらに自分のよさに気付き、伸ばすことのできる生徒が育つと考える。

検証事例3

| | | |
|-----------|---------------------------------------|---------------------|
| 検証事例 3 | コミュニケーションへの関心・意欲を高め 「よさ」に気付かせる課題学習 | 11月実施 中学校第2学年 英語 |
|-----------|---------------------------------------|---------------------|

1 単元名 Aki Talks about her Dream.

2 単元の目標

(1) 聞くこと

- ア 将来の夢に関するスピーチを聞いて、具体的な内容を聞き取ることができる。
- イ 自分のスピーチに対する質問を聞いて、適切に応じることができる。

(2) 話すこと

- ア 基本的な英語の音声の特徴を正しく使い、スピーチをすることができる。
- イ 自分の夢について、聞き手に正しく伝わるように話すことができる。
- ウ スピーチを聞いて、その内容に関して問答したり意見を述べ合ったりすることができる。

(3) 読むこと

- ア スピーチ原稿を読み、内容を読み取ることができる。

(4) 書くこと

- ア スピーチ原稿の基本的な書き方を使い、書くことができる。
- イ 自分の夢について、読み手に正しく伝わるように書くことができる。

3 研究主題と本単元との関連

この単元は、自分の将来の夢についてスピーチし、その後で質疑応答をするという学習である。本校の生徒は、将来の夢や希望をまだ定めていない生徒が多く、さらにその夢や希望を人前で話すことには抵抗があるという傾向がある。

そこで、課題を「将来の夢」と限定するのではなく、“I want to～”の表現を使って夢や希望を相手に伝えることとし、生徒の興味・関心等に応じた課題になるように学習内容を設定した。生徒は、既習の文法事項を駆使しながら英文を作り、発音を調べ、良いスピーチを行う工夫をし、発表練習も繰り返し行った。その学習活動の中での、生徒の工夫や努力を研究主題における「よさ」ととらえた。

さらに、グループワークや発表などのスピーチの学習や評価を通し、生徒同士が互いの「よさ」に気付き伸ばせる場を設定した。生徒は、相手のよいところに気付き、自分のスピーチもより工夫を凝らすようになった。また、相手のスピーチの内容に関心を持ち、質疑応答をしようとする意欲にもつながった。これらの活動により、コミュニケーションへの関心・意欲が高まり、結果として英語で表現する能力を伸ばすと仮定し検証した。

4 生徒の実態

東京西部に位置する本校は、学級数が多いため、友人関係は表面的になりがちであるが、部活動が盛んで、限られた集団では親密な友人関係を築いている。英語学習においては、1年次から主に「聞くこと」「話すこと」に力を入れてきた。AETによるチームティーチングも多く行ってきたので、英語によるコミュニケーションへの関心は高い。1年次にもスピーチを行ったが、個々の気持ちの違いを表現するまでには至らなかった。

5 指導の手だて

(1) 学習教材の工夫

ア 不定詞すごろく

英語を話すことへの戸惑いを除くためにグループでゲームをさせながら、不定詞の名詞用法の定着を図る。「すごろく」のマスに不定詞の名詞用法を使った疑問文を書いておく。さいころを振り、コマを進め、止まったところの疑問文を読み、答えることでコマを進めることができる。

イ Survey(調査活動)

不定詞の副詞用法を使ってクラス全員を対象に調査活動を行わせる。質問事項を考えさせ、調査させることで、自分の考えを相手に伝えることを学ばせる。また、調査結果をクラス全員の前で英語を使い発表させる。

(ex.) A: Where do you often go to buy a CD ?

B: I go to ABC shop to buy a CD .

ウ What am I? クイズ

人前で発表する経験を積むために、考えたクイズをペアになり発問、解答させる。クイズは不定詞の形容詞用法を定着させるための内容にする。

(ex.) A: I am something to cut the papers . What am I ?

B: Are you scissors ?

A: Yes , I am.

(2) 学習方法の工夫

ア 英語を話すことに緊張感をもたせないために、ペアワークをさせる。

イ 苦手な部分を補い合うために、グループワークを行う。

ウ スピーチ原稿をコンピュータに入力させ、LANシステムを使用し、お互いの原稿に対しての感想を書き込ませる。

(3) 課題提示の工夫

ア スピーチをすることに興味をもたせるために、モデルスピーチを見せる。

理由を聞きたくするようなスピーチを組み立て提示する。また、写真や品物を使い、聞き手の興味を引く方法を示す。

(ex.) Teacher: I don't want to go to Europe. Do you know why?

Students: No. Tell us please!

イ よいスピーチをさせるために、2種類のモデルスピーチを行う。どちらのスピーチがよかったか、どこがよかったかを判断させ、今回のスピーチの評価規準に気付かせる。

(4) 評価の工夫(ふりかえり)

ア 以下を自己評価の観点として1時間目から3時間目に行わせる。

(ア) 間違いを恐れずに英語を使い、自分の考えを話すことができたか。

(イ) 相手の話に興味をもち、聞こうとしたか。

(ウ) 相手に自分の言いたいことが伝わるようにしたか。

イ 4 時間目、5 時間目には以下を良いスピーチの観点とし生徒に示す。

- ・ 大きな声で話す。
- ・ はっきりと英語を発音する。
- ・ みんなの方を向いて話す。

ウ 4 時間目、5 時間目には以下の観点も加え、自己評価をさせる。

- (エ) 相手のスピーチの工夫していることに気付けたか。
- (オ) 相手のスピーチの工夫していることを、自分のものに取り入れたか。

エ コンピュータのLANシステムを使い、相互評価をさせる。(6 時間目)

6 指導の実際

(1) 指導・評価計画(総時数6時間)

| 時間 | 学習活動 | 指導の手だて()・評価() |
|---------|---|--|
| 1 | 不定詞(名詞用法)について学ぶ。 「～すること」という表現を理解する。 不定詞(名詞用法)を使ったすごろくゲームにグループで取り組む。 ゲームの取り組みについて、自己評価とグループ内での相互評価を行う。 | 文法に従って正しく話すことができる。 すごろくゲームを行うことによって不定詞(名詞用法)の使い方を定着させる。 評価の観点を黒板に掲示しておく。 積極的に自分の考えなどを話している。 |
| 2 | 不定詞(副詞用法)について学ぶ。 「～するために」という表現を理解する。 不定詞(副詞用法)を使って、友達がよく使う店等を調べる調査活動をする。 調査結果を個人がクラス全員の前で発表する。 調査活動について自己評価する。 | 不定詞(副詞用法)を使って自分の考えを相手に伝えるようにさせる。 調査したい内容によって語句を選択し話すことができる。 理解してもらえるように表現を言い換えたりして工夫をしている。 |
| 3 | 不定詞(形容詞用法)について学ぶ。 「～するための」という表現を理解する。 不定詞(形容詞用法)を使い、クイズ“What am I?”を作る。 クイズをペアで出しあう。 良かった問題を選ぶ。 | 楽しく、何度も会話をさせる。 聞いた内容を正しく聞き取ることができる。 制限時間内でできるだけ多くの相手とクイズを出し合い、正答できるか競わせる。 自ら学んだ表現などを使っている。 |
| 4 本時 | モデルスピーチを聞き、よいスピーチとはどういうものかを考える。 ワークシートを使い、英語のスピーチの基本的な形を理解する。 自分の夢や希望についてのスピーチを作成する。 良いスピーチの観点を意識しながら、友達と練習し、相互評価する。 | スピーチの基本的な形を理解している。 ワークシートにある評価の観点を意識させる。 自分の夢や希望を英語で表現できる。 AET とのチームティーチングにより個に応じた指導をする。 |
| 5 | クラスの前でスピーチを行う。 スピーチの相互評価をする。 スピーチをした感想、みんなのスピーチで良かった点をまとめる。 | 間違ふことを恐れず話している。 発表者の内容に関心をもたせ、質問をさせる。 英語の内容を聞き取ることができる。 発表者のよいところに気付かせる。 |


| | | |
|---|--------------------------------------|---|
| 6 | コンピュータにスピーチ原稿を入力し、LANシステムを使い、相互評価する。 | <p>タイピングの確認をする。 伝えたい内容を正しく入力することができる。 書かれた内容を正しく読みとり、適切に反応することができる。 友達の工夫しているところに気付かせる。</p> |
|---|--------------------------------------|---|

評価の観点の丸数字は、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、言語や文化についての知識・理解、を表す。

(2) 本時の目標

- ア 英語のスピーチの基本的な形を理解する。
- イ 自分の好みや考えについて、相手にわかるように話すことができる。
- ウ 相手の好みや考えを聞き取ることができる。
- エ 友達がスピーチで工夫していることに気づき、自分に活かそうとする。

(3) 本時の展開

| 主な学習活動 | 指導の手だて | 評価 |
|---|--|--|
| <p>モデルスピーチを聞き、良いスピーチの観点を考える。</p> <p>英語のスピーチの基本的な形をワークシートで学ぶ。</p> <p>自分の夢や希望についてのスピーチを作成し、個人で発表練習をする。</p> <p>友達と発表しあう。内容に関する質疑応答をする。</p> <p>相互評価をする。ペアを変え、発表・質疑応答・評価をする。</p> <p>ふりかえりシートを記入する。</p> | <p>モデルスピーチを行い、興味・関心をもたせ、評価の観点を理解させる。</p> <p>結論を始めに言い、その理由を述べていくことを理解させる。</p> <p>論理展開に注意をさせる。AETにも質問させ、疑問を解決させる。</p> <p>良いスピーチの観点を黒板に掲示し、確認する。</p> <p>一人に3枚の評価表を渡し、異なる3人との間で発表・質疑応答・相互評価をさせる。</p> <p>本時の目標が達成できたか意識させる。</p> | <p>スピーチの基本的な形を理解している。</p>  <p>自分の夢や希望を英語で表現できる。</p> <p>相手の話の内容を正しく聞き取ることができる。</p> <p>相手の工夫している点を自分に活かそうとしている。</p> |

(4) 評価

- ア 英語のスピーチの基本的な形を理解している。()
- イ 自分の好みや考えについて、相手にわかるように話すことができた。()
- ウ 相手の好みや考えを聞き取ることができた。()
- エ 友達がスピーチで工夫していることに気づき、自分に活かそうとした。()

7 成果と課題

(1) コミュニケーションへの意欲・関心を高める課題学習について

事前調査の結果、生徒の取り組み方に差がでると予想したが、いざ授業が始まると、ほとんどの生徒が自分はどんなことを話そうかと、意欲的に考えていた。スピーチ内容は、部活動に関するものが多かった。生徒たちにとって関心のある部活動のことであれば、自分の夢や希望が見えやすく、スピーチを作りやすかったようだ。なかには、はっきりとした展望をもった将来の夢を語った生徒もいた。結果的には同じ内容のスピーチは1つもなく、どれも素晴らしいものに仕上がった。互いのスピーチを聞いた生徒の感想では、「友達の夢や希望を英語で聞くことは、とても楽しかった」というものが多かった。「友達の意外な面も知ることができた」という驚きもあったようである。

これらの点から、課題を生徒の興味・関心等に応じられるものに設定することで、生徒のコミュニケーションに対する意欲は高まったと考えられる。

一方、話したいことは見付かって、英語にすることに難しさを感じた生徒もいた。AETとチームティーチングで対応したので、個々の生徒に応じて英文作成を指導できたが、コミュニケーションへの意欲を表現の力につなげるためには、基礎・基本の指導を更に徹底する必要を感じた。

(2) 個々のよさに気付くことについて

よさについては、「良いスピーチを行う工夫や努力」と設定した。この課題学習を通じ、生徒は休み時間にも発表練習を重ねるほど努力していた。自己評価にも満足した結果が多く見られ、友達の活動に対する評価も高かった。また、友達と練習し合うことで、友達のスピーチの良い点に気付き、自分に活かすことができた生徒も多かった。以上のことから、「よさに気付き伸ばす」ことはできたと考える。

また、よさを相手にうまく伝えられない生徒については、7時間目のコンピュータを使った相互評価が有効であった。生徒の実態に応じて、よさの伝え方を工夫する必要がある。

(3) へき地教育としての課題

本検証事例は、生徒数が多く他地域との交流も容易な比較的規模の大きい学校で行った。そこで、事前に生徒の興味・関心を把握し、その結果を活かし生徒の意欲を引き出せる課題を設定した。さらに、チームティーチングを行うなど指導の工夫を凝らすことで、個に応じた指導は可能となり、学習を通じて自己のよさに気付かせることもできた。

個々のよさに気付き伸ばす段階では、多くのよさを知ること大切な要因であると考えられる。学校の規模が小さく、交流の少ない地域にある学校においても、積極的に多くの人とかかわり、多くのよさを知ることができるよう工夫をしていく必要がある。へき地においては、他校種の生徒や地域の人とかかわりや、インターネット等の通信機能を使うなど、多くの地域の人と交流を図っていくことが必要だと考える。

研究の成果と今後の課題

本研究では、「児童・生徒の興味・関心等に応じた課題学習を工夫することによって、主体的に課題を解決し、自らのよさに気づき、伸ばす児童・生徒が育つであろう。」との仮説をたて、実態調査の結果をふまえ、研究員全員が各学校において検証授業を実施した。

ここでは、授業を行う上で工夫した指導の手だてが、育てたい力をはぐくむことにつながったか、その成果と課題を述べる。

1 研究の成果

(1) 学習教材の工夫

児童・生徒の実態をとらえ、教科の指導の中で、自らのよさに気づき、伸ばすことのできる課題を設定した。クイズやゲーム、自分が制作したデッサンなど、学校や子どもたちの実態に応じた教材を工夫し学習を進めた。児童・生徒は、その学習の中で自分たちの興味・関心等に応じた課題を選択し、意欲的に課題学習に取り組み、教科の学習効果を高めることができた。

(2) 課題提示の工夫

課題学習を効果的に進められるよう、身近な題材や児童・生徒自身にかかわることなど、児童・生徒が興味・関心をもてる課題を提示した。また、モデルスピーチや鑑賞の視点など、学習を進めていく上での課題をあらかじめ提示することによって、自ら進んで課題の解決に取り組むことができた。

(3) 学習方法の工夫

ワークシートや評価カードなどを活用することによって、意欲的に課題学習に取り組んだ。学習の中でよさを明確にし、学習の振り返りやグループワークなどを通して、今まで気付かなかった自己のよさや友達のよさに気付くことができた。

(4) 評価方法の工夫

評価の観点や評価規準を学習を進める前に提示することによって、児童・生徒がその学習のねらいを明確にとらえ、学習を進めることができた。また、自己評価や相互評価を活用することによって、自己のよさや互いのよさに気づき、次の学習に向かいそのよさを伸ばしていくことにつながった。

2 今後の課題

教師が様々な指導の手だてを工夫することにより、児童・生徒が自らのよさに気づき、伸ばすことができた。今後、この成果を生かし、児童・生徒自身がその課題解決の方策を工夫できるような学習を進めていく必要がある。

課題学習での成果を、各教科の基礎・基本の確実な定着を図る学習にも結びつけていくことが課題である。

平成16年度 教育研究員名簿（へき地教育）

| 市町村名 | 学 校 名 | 氏 名 |
|---------|-------------|---------|
| 青 梅 市 | 新 町 中 学 校 | 田 中 明 子 |
| 羽 村 市 | 武 蔵 野 小 学 校 | 丸 山 秀 武 |
| 檜 原 村 | 檜 原 中 学 校 | 瀬 川 幹 子 |
| 神 津 島 村 | 神 津 中 学 校 | 今 津 光 司 |
| 三 宅 村 | 三 宅 小 学 校 | 大 澤 宏 史 |

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター 指導主事 岡田 正治

平成16年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成16年度 第21号
(東京都教育委員会主要刊行物)

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社